現実と虚構

－ The world is made of Real and Fake －

A20AB056　坂井田うらら

1.はじめに

現在私たちの世界はデジタル社会であり、「現実」と「虚構」の2つの世界から成り立っており、「現実なのに虚構」という新しい世界の在り方が生まれた。コロナ禍によってより2つの世界の境界線が曖昧になったことで、本来のモノの価値が薄れつつあると感じた。

ここから大好きな本で、夢と現実が混合された世界を描いたルイス・キャロル作「不思議の国のアリス」を想起し、相反する世界を表現しようと考えた。

本制作ではオートクチュール特有の立体裁断を用いて、衣服の美しさを表現したモノとしての価値を見出せる衣服の設計を行い、独自の感性や世界観を落とし込んで見る人を魅了させる、4年間の学びの集大成に相応しい衣服を制作とすることを目的とした。

2.テーマとリサーチ

「不思議の国のアリス」を中心としたマインドマップを作成し、その中から「サイケデリック」「白」「黒」「鮮やか」「ボリューム」「夢」の6つのワードを選択し 、テーマに 合うアイテムや画像を雑誌やサイト等を用いてリサーチした。

「現実」はボリュームを控えたスタイリッシュでモードを基調としたモノトーン調のアイテムにデジタルの象徴のテレビや携帯を想像するサブカル要素を、「虚構」はボリュームかつありえないようなディテールでフリルを多く使用し色彩を鮮やかにした舞台衣装に近いものとした。

3.デザイン

ムードボードを作成し、デザイン展開を行った。デザイン画を80体描き、「不思議の国のアリス」作中のキャラクターをモチーフとした20体のデザイン画をコレクションラインとして選定した。その中から制作するデザインを図1に示す。

選定したデザインはキャラクターのうちのアリスである。選定した理由は、目で見て美しいと実感するはずのモノの価値が薄れつつある中で、独自の感性や世界観を落とし込んで見る人を魅了させるというテーマに、最も合うデザイン画だと認識したからである。

図1 制作するデザイン

4.制作

CADで引いたパターンを基にトワルを組み、綺麗なシルエットが出るように立体裁断を行った。土台のスカートのほか、新聞紙でパニエを作成し、その上でエプロンのパターンを設計した。補正を加えたのち、縫い代の設定を行ったものをマスターパターンとした。

本縫いに入る前にそれぞれの本布に一目落としの縫いしつけを行った。

ビスチェの表地と見返しはジョーゼット、裏地はシルリードストレッチ裏地を使用し、縫製を行った後に両面ハトメを取り付けた。

パニエの土台のセミタイトスカートはセラミカタフタ、20デニールチュールと50デニールチュールを使用した。チュールの試作を何回か試した後に土台にギャザーを寄せたチュールを縫製した。またエプロンとベルトはジョーゼットを使用し、チュールを取り付けた後に付けた。

つけ襟のシャツはカラーブロード、ブローチはビーズパーツとシルリードストレッチ裏地を使用した。

つけ袖は20デニールチュールを使用しギャザーを寄せ、平ゴムに縫い付けた。

完成した作品を図2に示す。また着装した画像は1枚目のボードで示している。

図２ 完成作品

5.おわりに

コロナ禍によって変わりつつあるモノの価値を認識し直し、衣服の美しさを独自の世界観とともに表現する複雑さを、卒業テーマとして深く考えることができた。美しく見えるためにはどう変えるべきかと自身で考え、制作に落とし込む作業が多く出来たため、本制作はテーマと寄り添える形となった。テーマの設定から制作まで時間が足りないと感じたが、それ以上の達成感を本制作から得られたと思う。